MAY 4 1949

THE SENDAI HIGH SCHOOL

# 川内高校新聞

發行人　川内高等學校
　　文藝部
代表者　寺田四郎
印刷人　久保吉二

## 川内高校生に寄す

松浦一六

先日川内市でささやかはあつたが、熱心にお話たか。目にふれ耳にきき な講演會を開いた。あいしたつもりである。文藝 にく田植時に當つたので に於て吾々は何を求める 教育關係者の御努力にも かゝわらず、雀勢百人内 外の來場者で、まことに さびしい會であつた。然 し私は、まげて來場下さ つた皆様に對して、誠 誠意に應ふべく先日と

理論がへぜれ福、その場 限りの感情や、見覺え の文句や、人偽の借物で であつた。

その緣故を以て、今度 ふ口の下から、丸で反對 なる矛盾した言動を平氣で 行ふのだ。實に人は虛 偽の權化と思はれる程た 君の御參考に供したい。 何故、眞理とか、道理とか 人は一体何のために生 を口にし求めながら、一 方では他人を殺してまで きるのか。この回答は、 自分がよい頭をしよう とむつかしいものはあ とするのだ。文明が進む るまい。而も口で言ひ に從つて、生活が幸福に 頭で考へた回答は一 ならないのは、どういふ 應は出來るだらうが、 譯であるか。諸君は、本 それでは口頭禪のたゞ 當に人間の幸福について ひであつて、本物では 考へてみた事があるか。 ない。その目的に實踐 吾々は永年この幸福を執 を以て生き貫くことか 拗に追求したものだ。今 ら、本當の回答が生れ 確信を以て、その幸福を るのでなくてはならぬ 云ふことが出來るか。ツ 。吾々は、人生の意義ルゲーネフは、その「散 如何、目的如何といふ文詩」に「幸福を願ふな 人と云へども最も尊敬す ことは古來の哲人賢人ら、苦惱を學べ」と云つ 己の生活を生きて行く人 の格言や警告を、幾度 に誇り富に頼る民の終も富も遂には必ず滅びる た。私はこの言葉がぎく と眞摯な生活ほど貴いも 聖賢は、唯の一人も、當 目に讀み、言葉にしてり 洋の東西を論ぜず公當んだのである。何故なら と應べた。人生の苦惱の 國民の精神である。此の 來たであらうか。而も 國富んで兵强くさへあれ ば彼の預言（日本滅亡）が 味し知つた者でなけれ 的中する機會が近く到來 その一つさへ、これを 國家は長久に榮ゆべき 實踐的に証明したとい 然し彼は「亡ぶ日本」の う偽らざる滿足を持つ ものなりと信ずる人は よ

なければ、幸福の本体は 分らない。否苦惱と戰つ で居る者でなければ、幸 福の眞味を會得することは出來ないのだ。

「美しい正しい人生を送りたい。」これは恐らく 人々の求める人生の目的 であらう。この美しいと 正しいとかの標準が定 まつてゐない爲に、各人 各樣の解釋が生れてくる 人ではなく、平凡な市井 人の中で、この人生を最 高に戰ひとる人に即 上は個人の錬磨と協力に あることを知らない。上 は政治家より一般人に至 るまで、人間の美しき交 情や道を捨ひ去り、汚

有名な政治家や、花やか な藝術家を尊敬しなかつ た。困苦の極にあつて、 自由と稱して節度なく、個 人と稱して利己となり社 會に於て吾々は何を求める 限りの感情や、見覺えの 文句や、人偽の借物であ つたか。それだから、い 人の求める人生の目的 を以て滅裂するが、如き 自己を豐かに富ませる資 格を失つたものと云 はねばならない。諸君が 高い。たとひ日本國は亡び る。戰後經營は、人の魂を 腐らせる。村は明治三十四年の一文 に次の如く書いてゐる。「國が亡びるとはその山が ら出來る。國威宣揚に伴 ひて發つた。その事業が 崩れるとか、その土地が ら事業の發展にどんなつ らず具合と謂められたよう て一言す。

猥雜な氣風が漲り、自 由奔放な藝術は、人の魂を腐 らせる。村は明治三十四年の一文 に次の如く書いてゐる。「國が亡びるとはその山が ら出來る。國威宣揚に伴 ひて發つた。その事業が 崩れるとか、その土地が ら事業の發展にどんなつ らず具合と謂められたよう て一言す。

## 說論

### 我等のアルバイト

戰後アルバイトの語べき休でないことを感じは學生間否世間の流行語になつた。本來の意味からは小々はなれた意味に解釋されているようになつたことは、現實をが、要するに、この言葉に目覺めた事を意味すると共に學生を連想する如く、我々は切に、學ぶ者の意欲を遺憾なつても切れないものになつた。今我々は、特世間の人はよく「今の學生は不平である」と言ひ盟の夏休にはいつたのであるが、從前のやうな安易な氣構へで送る

今更乍ら世情の逼迫したことを思ふのである。然し働くことに熱心に成績を上げることが出來る。新憲法に於ては勤勞の權利を明記してある。

即ち働くことは人生に於ける必然的條件である。時代に則したアルバイトの意義を深く考へ、學生の本分を忘れない眞に學生としてのアルバイトでなければならない。働くことは美しく幸福感で一杯である筈だ。新しい傳統は働くことに依つて創造し、

即ち我々人間は勞働によつて自分の魂を强くし、そして深く掘り下げ、みがき上げることが出來るからである。

新憲法に於ては勤勞の權利を明記してある。

即ち働くことは人生に於ける必然的條件である。我々は今アルバイト流行成程眞理の探究に勉むべき時代に則したアルバイトの意義を深く考へ、學生の本分を忘れない眞に學生としてのアルバイトでなければならない。働くことは美しく幸福感で一杯である筈だ。新しい傳統は働くことに依つて創造し、

書に依る勉强はほんの社會生活の一部分にすぎない。働くことに依つて從前の學生が知り得なかつた新しい生活經驗を發見出來ることは何物にも勝る喜びであると信ずる。ゲーテは言つた。「天才ようであつて、衒學、高慢、無信仰、無神等のあ

てくるであらう。

世は正に滔々として汚濁猥雜な氣風が漲り、自由奔放な藝術は、人の魂を腐らせる。村は明治三十四年の一文に次の如く書いてゐる。「國が亡びるとはその山が ら出來る。國威宣揚に伴ひて發つた。その事業が崩れるとか、その土地が ら事業の發展にどんなつらず具合と謂められたようて一言す。

映畫界にあらず、劇館今日の經營である。國運衰退の時における事業の發展である、戰に敗れて精神をえらばず不滅に見えるところに映畫の實性が存在する。

こゝから生れてくる思想は何をいふのであるか。戰勝國の戰後經營はどこまでも出來ないのだ。

「美しい正しい人生を送りたい。」これは恐らく人々の求める人生の目的であらう。この美しいと正しいとかの標準が定まつてゐない爲に、各人各樣の解釋が生れてくる。

人間は、唯の一人も、當時の偽流には言はれなかつた。吾々が眞劍である。

人間で何が尊貴を求めて行く人をとには絶えて跡なきに至るものであることを强く主の理が、時の古今を問はず、張り續け日本の爲めに悲洋の東西を論ぜず公當んだのである。何故なら國民の精神である。此の

ば彼の預言（日本滅亡）が精民さへあればその土地で立上るものとして「神」

國富んで兵强くさへあれ的中する機會が近く到來は他人の手に落ちることが有つてもその國はビる

然し彼は「亡ぶ日本」のものなりと信ずる人はよく

國民の精神の失せた時

ばこそ彼は萬斛の熱涙

國民に與へた忠告であれ

年國民に與へた忠告であれ

が、更に勝ち誇つた國

國民の精神の喪失とは

國民の精神の喪失とは

國民の精神の喪失とは